Architectural Institute of Japan

日本建築学会大会学術講演梗概集
（東北） 2009年 8 月

近世の町割を継承した近代花街の都市空間と建築特性
－港町新潟の古町花街を対象として－

正会員　○佐藤　正宗 *
同　　岡崎　篤行 **

花街　　歴史的建造物　　新潟古町
町割

1. 研究の背景と目的

明治期に都市再開発の過程で増加した花街は、戦後に赤線地区の取締の対象となり急速に失われてきた。しかし、新潟の古町花街には近世の町割を継承した近代花街の歴史的建造物[1]、都市空間、生業が残っており、花街の都市空間と建築の特徴を読み解くことのできる事例だと言える。建築や都市空間から花街をみた研究は、事例研究がほとんどである上[1]、代表的なもののみが抽出されている。本研究の対象地を含んだ新潟下町地区でも歴史的建造物の残存状況については調査されているが[2]、花街に特化した研究は行われていない。よって、本研究では古町花街の空間的特徴、花街建築の外観特性を明らかにして、対象地におけるまちづくりの基礎的な資料となる事を目的とする。

2. 対象地概要と研究方法

長岡藩の外港として堀直寄により町建てされた新潟は、1655年に現在の位置へ移転し、町割の原形がつくられた。本研究の対象となる古町通八・九番町を中心とする一画もこの時期にその原形がつくられたとされている[3]。花街の発祥は詳しくは明らかになっていないが、1753年にはその名称が確認されている。その後、江戸、明治、大正と繁栄を迎えた古町花街も、昭和以降徐々に衰退の一途を辿っている[4]。しかし、対象地では明治後期から昭和の大火を免れたため歴史的建造物の損失は少なく、現在では飲食店や風俗店の集積した繁華街となり、歴史的建造物と高層建築が混在する地域となっている。

研究の方法は、まず文献や既往研究から対象地の概要を把握し調査範囲を決定する。そして既往研究[4]、文献調査[5)6)7)]、現地調査、から都市空間に関して分析を行った。また目視や住民、関係者へのヒアリングにより歴史的建造物の中から花街建築[2]の抽出、建築特性に関して分析を行った。

3. 古町花街の都市空間（図 1）

新潟町における景観を構成する街路は通り、小路、路地の3種類の分類される。しかし、古町花街にはその3種の街路のどれにも属さない新道という街路が存在しており、そこには花街建築が集中して立地している。新道の形成期はそれぞれ異なっており、最も古いものは八番町側の東新道（ⒺⒻ間）であることが確認できる。発生した正確な年代は明らかになっていないが、1864年にはその名称が確認され[5]、1870年には地図上で確認できる[6]。同地図によると、「妓楼多シ」と書かれた西堀前通と古町通西側の八・九番町の二区画（ⒸⒹⒼⒽ）はすでに花街として繁栄していたものと思われる。1888年からの1893年の度重なる大火を契機に、県から規制が出され貸座敷は古町から横七番町以北に移転された。それらの大火の後には八番町側東新道以外の3本全てが「協議」の末、開通して現在の形となったと記されている[7]。また、この際に地主が土地を売り出す広告を掲載している。新道の開通がどのような目的で行われたかに関する記録は見られないが、現在の様な町並みが形成されたのはこの時期からであると考えられる。その後、明治・大正にかけて芸妓のみの花街として繁栄

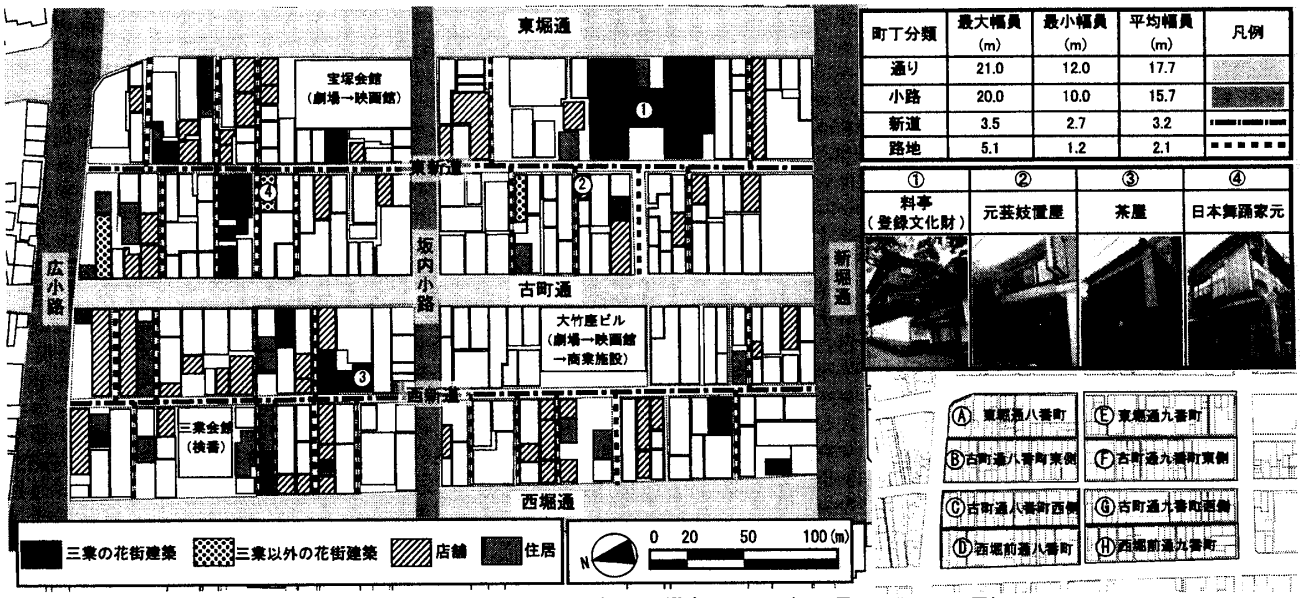


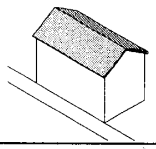
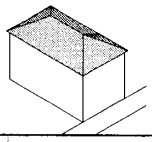
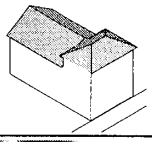
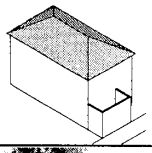
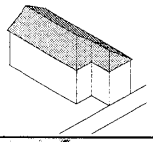
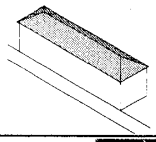
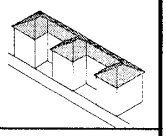
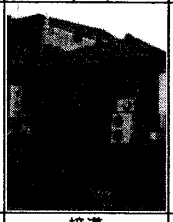
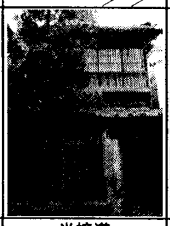
図 1. 花街建築と街路空間の分布図（調査日 2008 年 7 月 22 日～ 24 日）

Town Planning and Characteristic of Historic Buildings of Modern KAGAI(play district)　　SATO Masamune, OKAZAKI Atsuyuki
-A Case of HURUMACHI KAGAI in NIIGATA port town-

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

表 1. 配置・外形・屋根形状からみた歴史的建造物の分類

用途		戸建					長屋	
名称（花街建築数／歴建数）		切妻町屋型（0／22）	寄棟町屋型（7／19）	丁字型町屋（3／11）	半接道型（2／8）	一部接道型（3／12）	長屋型（0／3）	一部接道長屋型（0／3）
外形								
写真								
配置形態	接道	接道	接道	接道	半接道	一部接道	接道	一部接道
	接隣	接隣	接隣	接隣	接隣	接隣	接隣	接隣
	外形	I 型	I 型	I 型	I 型	角欠 I 型・L 型	I 型	凹型
	屋根	切妻	寄棟	丁字型	寄棟	寄棟・入母屋	寄棟	寄棟
優勢街路		路地	全体	全体	新道	新道	路地	路地

していった古町花街には、劇場や映画館といった娯楽施設も建ち並んで行くこととなる。

4. 歴建率と花街建築の残存状況（図 1）

調査範囲内の歴建率 [3] は確認できた建造物棟数 280 棟中 95 棟で約 33%と推定した。また、花街建築は歴史的建造物全 95 棟中 19 棟で約 20%であった。確認できた花街建築の中には、花街の三業（料理屋・芸妓置屋・茶屋）だけでなく、日本舞踊の家元や邦楽器店といった花街との関係の深い用途のものもあった。また、今回のヒアリング調査の中で、かつて花街建築であったものが少なくとも 12 棟残っていることが確認できた。このような花街建築を中心に歴史的花街として景観整備することで町並みの重点地区になりうる地域だと言える。

5. 歴史的建造物の建築特性

戸建・長屋の歴史的建造物を配置、外形、屋根形状から分類を行い、主要な 7 つのタイプを抽出した（表 1）。その中で花街建築と確認できたものは寄棟型町屋、丁字型町屋、半接道型、一部接道型町屋に見られた。また、半接道型と一部接道型は新道を前面道路として立地する傾向が高い。そのため、この二つのタイプは、下町地区に多くみられる丁字型町屋とは異なった、古町花街の特徴的な建築形態だと言える。歴史的建造物の中には改装されており壁面仕上げや細部意匠が確認できない事例も数多く見られる。しかし、確認できた細部意匠や外溝は一般的な花街建築に見られるような彫り物や細工の施された装飾性の高い華やかなものもあった（図 2、図 3）。また、下町の歴史的建造物の特徴である張出二階が確認されたが、この地域では二階が建物の側面に路地を覆う様に設けられ、底面が曲面状になっている（図 4）。

図 2. 花街建築の外溝

図 3. 目隠板の彫細工

図 4. 張出二階曲面

6. 結論

(1) 古町花街には新潟町に見られる 3 種の街路のどれにも属さない新道という街路があり、古町花街の中心となっている。新道の形成期は一様でなく、1893 年の大火の後に現在の形となり、町並みが形成されたと考えられる。

(2) 歴史的建造物は確認できた全建造物 280 棟中 95 棟で歴建率は約 33%であった。その中で花街建築は 19 棟で全歴建中約 20%であった。また、その他にかつて花街建築であったものが確認でき、これらを中心として歴史的花街として景観整備することで町並みの重点地区になりうる地域であると言える。

(3) 一部接道型・半接道型の建築形態は下町地域においても古町花街に多く見られる特徴的な建築形態といえる。また、特徴的な形態として底面が曲面状の張出二階が確認された。

【補注】
(1) 第二次世界大戦終戦（1945 年）以前に建てられた建造物と定義する。
(2) 三業とその他の花街に関係した用途である歴史的建造物と定義する。
(3) 調査範囲内で確認できた全建造物に対する歴史的建造物の割合と定義する。

【参考文献】
1) 水井七奈子：遺構調査に基づいた花街建築に関する研究　東京 35 花街を実例とした花街分析と花街現況調査，日本建築学会大会学術講演梗概集 pp. 371-372, 2006
2) 水嶋貴之・岡崎篤行・樋口忠彦：新潟市下町における歴史的建造物の残存状況と地区特性，日本建築学会大会学術講演梗概集 pp. 495-496, 2002
3) 新潟市：新潟市史　通史編 1, 1995. 3
4) 藤村誠：新潟における花街の変遷（市史にいがた　14 巻），1994. 03.
5) 紀興之：越後土産　初編，新潟大学附属図書館所蔵，1864
6) 越後新潟全図，新潟大学附属図書館所蔵，1870
7) 新潟新聞，1893. 8. 24・1893. 9. 17

* 新潟大学大学院自然科学研究科　博士前期課程
** 新潟大学工学部建設学科　准教授・博士（工学）
*Graduate Student,Graduate School of Sciece and Technology, Niigata Univ
**Assoc.Prof.,Dept. of Civil Eng. and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

NII-Electronic Library Service